

昭和42年度

1967-1968

委員会活動方針

鹿児島西ロータリークラブ"

S. A. A

S. A. A 高田光義
副S. A. A 伊東則生

当クラブ例会は、いつでも極めてなごやかな雰囲気で行われてきており、加うるに来訪ロクリアの教も非常に多い。

従って、会長、幹事並みに親睦、プログラム委員と十分に連絡をとって、このような良い状態をより一層助長することに努めたい。

出席奨励委員会

委員長 岡山 栄
副委員長 川路清高
委員 河井時義

(基本方針)

「出席」なくして、奉仕も友愛もあり得ない。先づ例会に出席することが我々の活動の前提条件であり、「出席」は会員として取らねばならないことであるとの認識を得ると共に出席を楽しみとするように、改めて強調する。更に「ホームクラブ」への出席率を少しでも向上させるように努力してみたい。

(計 画)

1. 年間100%出席者に記念品を贈呈する。
2. 出席掲示板に色分け等の工夫を講じ、マークアップや出席率についての自覚と注意を喚起する。
3. 3ヶ月毎に会員別の出席率一覧表を作成配布し、皆勤意欲の向上に努める。

社会奉仕委員会

委員長 佐伯 延次郎
副委員長 名越 時秀
委員 黒木長太郎

(基本方針)

所属地域社会をよく知り、何が最も必要に迫られているかを発見し、当ロータリーがこれに関与する可能性を検討して、やれば出来ることから実行していくことによって、地域社会の改善向上のために奉仕したい。尚この際、それ以外の分野に関係ある諸団体との協力についても、しつこく考慮すること。

(計画)

1. 身体不自由者のための施設(例えば整肢園、更生相談所、指導所等)に勤務する職員に対する激励と感謝。
2. 献本運動への協力。
3. 安全都市運動への協力。(防災、交通安全等)
4. 地域都市美化運動への協力。

青少年奉仕委員会

委員長 高井 敏治
副委員長 幸泉 芳良
委員 高德 三蔵
" 堀川 昇

1. 第370区第3回インターアクト連絡協議会のホストクラブとなり、8月18日、19日実施。
2. 訪韓インターアクト10人の1人に鶴丸高校インターアクトより選出。
3. ワンダーフォーゲル運動に協力。

4. 地域青少年運動に協力。

国際奉仕委員会

委員長 福田 敏之
副委員長 渡田 馨
委員 春山 ジョステン

1. 日米高校生交換(2名)を鹿児島市3クラブ合同にて行なう。
2. 世界理解週間中、留学生と例会に招待するほか、クリスマスパーティにインターアクトと一緒に招待する。
3. 鹿児島島の風物、ロータリー活動の状況をカラースライドにおさめ、マツケクラブに送って親善理解を深める。
4. 児童画をマツケクラブと交換したい。

親睦委員会

委員長 若元 正二
副委員長 小山 幸義
委員 米倉 秀雄
〃 神山 光政

(活動方針)

会員間の理解と友愛を深め、家族を中心とする親睦を目的として努力する。

(計画)

1. 毎月第1例念日にその月の該当者に誕生祝、結婚祝を贈る。誕生者に対しては、全員で「バースデー」プレゼント、祝福を送る。
2. 家族中心の親睦を目的とする家族会の開催。
秋の観月会、クリスマスパーティー、春のピクニック
3. 会員を中心とするゴルフ会を開催、スポーツを通して親睦を計る。
4. クラブ対抗の諸種の行事には積極的に参加し、他のクラブとの親睦を計る。

ローラー情報委員会

委員長 栗川 久雄
副委員長 衛藤 右三郎
委員 倉田 清市

1. 新会員に、ローリアンとしての義務と理解させる。
2. 会員に、ローリーの歴史、綱領及び活動状況に図らずも情報を提供して、奉仕活動への意欲をかきたてる。

会報・雑誌委員会

委員長 久保田 亨
副委員長 川村 一
委員 林 幸光

1. 同クラブの出席、②クラブ各委員の親睦、③クラブの活動状況に役たつような興味と内容のあつたものに注意する。
2. 会報は年に2回くらい発行したい。

職業奉仕委員会

委員長 久保 政 治
副委員長 日平 松 稔
委員 徳田 基 吉
" 若尾 仁 吉

各員の職業を通じて社会に奉仕する事こそ、このクラブの基本精神である事に立脚し、先づ各員各員の職業意識を高め、その社会性と崇め認識させ、その基本的態度として努力したるべきである。

ケーススタディ(事例研究)を活会に行ない、夫々各員の同心を高める。

1. 研修に参る者(事業場)の見学を(したい)
2. 例年実施して、その優良職業人の表彰を引当けて実施する。
3. 青少年奉仕委員会とも連絡をとり、仁クラブの各員の職業に対する知識を啓蒙したい。

職業分類委員会

委員長 光吉 正昭
副委員長 梶 真四郎
委員 服部 満江

(基本方針)

職業分類別一覧表を作成検討し、未充填部門がある場合は、
委員選考委員会に積極的に働きかけ、新委員の充填を計りたいと思ふ。

なお、この一覧表は全委員に配布し、ローラーの1条1人の
原則の重要性、職業分類に対する認識を深めるようにしたい。

委員選考委員会

委員長 塘 一郎
副委員長 岡元 健一郎
委員 土橋 英夫

1. 特に職業分類委員会との連絡を密にし、未充填職業分類と
充填する方、適当な人物を理事会に推薦する。
2. 委員の選考に当たっては、情実を排し、厳正を旨とし、その
人になり、重責を置いて、個人の品性と上存可能性を重視
する。
3. 上記 調査、判定の結果を理事会に報告する。

プログラム委員会

委員長 所田 久敬
副委員長 新福 景能
委員 飛岡 俊夫

(基本方針)

奉仕の精神に基き、クラブの方針と一致し、全員の
喜んで働くようなプログラム編成に努力する。内容は、バラ
ンスとバラエティを保ち、品格、有益、親和感、ユーモアのあ
るものとする。このため、クラブの役員、各委員長、会員と密接な
連絡を保ち、卓話者の円滑を図る。

(計画)

1. 例会の卓話は、ゲスト50%、会員25%、映画25%の従
来方針を続ける。
2. 予定の例会より、少くとも1ヵ月前から十分に計画する。
3. 卓話者の紹介は、プログラム委員が交替して行うと原則とする。

広報委員会

委員長 若田 太一
副委員長 牧田 健二
委員 光安 善雄

クラブ外の地域社会の人々に対して、ロータークラブについて
正しい理解をもってもらうように、クラブの行事及び事業等の報道
に努め、或いは積極的にマスコミ関係者と産産会等と打ちた
り、特にマスコミ関係の会員の御協力を得たい。

クラブ内に対しては、会員が各自の事業、或いは専門業を通
じて、地域社会にローター精神を昂揚していただくことが最
も効果的な広報であることを認識して、これを推進してい
たがために、会員及び各委員会にお願いする。